つるさき

発行所
鶴崎神社
〒701-0304
早島町早島2220
TEL 482-0097
FAX 697-6067
URL
http://turusaki2.web.fc2.com/

平成28年い草のジャンボ干支（サル）

氏神さまと産土の神

氏神（うじがみ）さまと産土（うぶすな）の神（かみ）どちらも同じように捉えがちですが、少し違いがあります。

氏神さまは本来、古代社会で氏を名乗る氏族（同じ姓を名乗る者）が祀った祖先神または守護神を指します。

血縁関係を元にしていますので、最初は小さな氏族の集まりでしたが、次第に一定の土地に関わる人々の集まり、つまり地縁関係に発展して行きました。

そして、その土地で生活する人々を災害や疫病などから守って戴くために、住民のシンボルとなるように、高く、広く、明るい一番良い土地に守護神を祀ったのが氏神さまです。

一方産土神は、その人が生まれた土地の守護神を指します。

また、古来からの風習では、生まれる前から死んだ後まで守護する神とされており、他所に移住しても一生を通じ守護してくれると信じられています。従って、生まれた土地の守護神が氏神さまとなりますが、生まれた土地から移住したら、その人にとっては氏神さまは産土神となり、移住先の土地の神さまが氏神さまとなるとう訳です。

何れにしても、その人にとっては守護神となりますので、大切に扱われ守られて来たのです。「神社参拝は先ず氏神さまから」と言われる所以です。

安原伝兵衛物語

6

十二日振りに伝兵衛は早島へ戻ってきた。夕闇に隠れるように鶴崎神社に寄った。馬を鳥居につなぎ、鎮守の森の奥深く、秘密の洞に路銀を入れた。それから馬を曳いて家路を辿る頃には人の顔も判らぬほど暗くなった。庭先から我家の様子を窺うと別段の変化はなさそうなのでほっとする。でも寂しい雰囲気に変わりはなく胸が痛む。

裏口へ回ると、明かりの下で水を使う音がした。引戸を静かに動かしたら、おかァが気付いた。

「伝兵衛ッ今までどこへ行っとったんじゃ。心配させてからに……」

すぐに涙声になってしまう。

おばァと妹たちも飛んできた。下の妹が抱きついた。

「久し見ん間にこねいに大きゅうなったか」

「馬鹿こくでねえ、人を笑いもんにして」

おばァが怒ったけれど笑いだしてしまった。馬宿からは連日、伝兵衛を探しに来たらしい。しまいには馬を弁償せよと脅したそうだ。（儂の心配はせずか！女子供を脅かしたり、卑しい根性が丸見えじゃ。吉兵衛さんの言った通りじゃ）

親方に渡す銭を減らそうと決めた。

おかァとおばァと妹四人によくよく言いきかせ、銭五貫と米一俵を渡した。残り三貫を馬に付けて返そう、その上で何発撲られてもそれでいい。それを耐えたら辞められると腹をくくった。夜は更けたが、馬宿はもともと深夜近くまであけている。決心がついたら一刻でも早く決着をつけたい気持ちになった。

馬宿に近づくと、馬がぶるぶるっと首を振りひと声高く嘶いた。

「おめえは帰ってこれて嬉しいのか。あねな処でもおめえの古里だけんな」

伝兵衛は頬ずりして可愛がった。十二日、とにかく馬だけは怪我させんように気を配ったつもりだ。

「もうすぐ別れじゃけんなあ」

馬宿から黒い影が次々と飛び出して、「伝兵衛が戻ってきたぞ！」

「何じゃと、今頃どの面さげて帰ってきたんじゃ！」、「やってしまえッ！」親方の声だ。三人を後ろから焚きつけている。前後左右から撲られ蹴られ、引き倒された。

「ちいと話を聞いてつかあさい」

伝兵衛が訴えても暴力は止まらない。このまま殺されるかと思った。強く握っていた馬の手綱が拳から放れた。

「あれッ馬が逃げ出したぞ！」

乱暴騒ぎに興奮したらしい。（銭積んで、何処ぞ遠くへ逃げてくれ）

伝兵衛は心の中で叫んだ。起き上がりかけて叺また踞ってしまった。蹴られた腹が激しく痛む。やっと馬は連れ戻され、背に積んでいた米俵と叺が降ろされた。

「何じゃこりゃあ、銭がいっぱい入っとるぞ」

叺の銭を見て皆が騒きだした。

「伝兵衛こねえな銭をどうしたんぞ」

親方の声は怒号から猫撫で声に変わった。伝兵衛は痛みを堪えてとぎれながら答えた。

「しやから聞いてつかあさいと言うとったのに、こねえなひどい目に合わされてしもうて、全くおえりゃぁせん」

伝兵衛は怒りと恨みをぶちまけた。

「お前らもうちいと手加減せんといかん」

親方は全く筋の通らぬ事を言う。さんざん痛めつけてくれた三人は、ふてくされて詫びようともしなかった。

この一年余りは何だったのだろう。何ひとつ心に残るものはない。それにひきかえ吉兵衛と共に働いた十二日は宝物だ。

大怪我という代償とひきかえに、後腐れなく辞めることができた。さらに家族との愁嘆場なく石見銀山にすんなりと行けるきっかけになった。

「こねえな残忍なことをやってのける奴等じゃ。この先何するやら判らん。伝兵衛を石見銀山に行かしたらどうじゃろ。命あっての物種じゃけんな」と、おばァが賛成

してくれたのでおかァも渋々同意せざるをえなくなった。傷が癒えるまで、伝兵衛は家族全員から優しい介抱を受けた。おかァは残してくれた銭で二、三年は食べて行けるから心置きなく旅立ってくれと言った。

鶴崎神社の森から隠しておいた銭をとり出した。そして神主に別れの挨拶をした。

「お前はよくよく怪我をするし、落ち着かぬ男じゃの。何に？田圃を買い戻すために出稼ぎする気になったんと……」

「はい。石見銀山の錦織弥太夫さんが、男が一旗あげるには良い処だと言いんさったですけん」

「えらい遠国じゃのう。備前、備中、備後、美作、出雲、石見……ええと途中にまだあったかいのう、そうじゃ道中安全の祈願とお守りを進ぜちゃるけんな」

伝兵衛は神主の特別の厚意がありがたかった。なけなしの路銀の中から、思いきって二百文奉納した。すると、しばらく待たされた後、旅装束一式を用意してくれた。

笠から始まって、白い単衣、半袴、脚絆、甲掛り、草鞋、杖に何と神札二十枚が揃えてある。

それには「大吉備津命荒魂、八幡神社之御霊」と墨書してあった。怪訝な顔で眺めていると、「長い道中じゃけん追剥や強盗も出るじゃろ。でも僧侶や神官だったら手加減もするじゃろ。伊勢神宮にはたくさんの御師がおって全国で御礼をくばっておられる。伝兵衛は今日から鶴崎神社の御師じゃ。御礼を配って旅すりゃ御利益まちがいなしじゃ」

御師と言っても俄御師、衣裳も恥ずかしい。神主の厚意を無にできないので、御師の恰好で旅することにした。

「よう似合うちょるぞ」と神主は自分の案に満足している。

神道Q&A

【質問】

家を建てる前に地鎮祭を行いますが、何故このようなお祭りをするのですか。またどんな意味があるのでしょうか。

【答え】

地鎮祭は新しい敷地に建物を建設するために土地を「鎮祭」するために行います。

地鎮祭の祭壇

鎮祭する事は地鎮祭の他に鎮花祭、鎮火祭、鎮魂祭、鎮水神祭などがあり、疫神、火、荒魂、水、敷地等からおこる災禍を鎮静して、祓い除けることを目的にした祭りです。

土地を住宅の敷地とするためにこの土地の中に潜み、また土地の中から襲い来る禍つ神（災いを司る神）を、この敷地の中に入らないようにして、禍つ神の災禍を起こさせず、禍つ神を鎮静し、祓いやるのが地鎮祭の「シズメル」という目的です。

祭典の中で、鎮め物を仮埋納しますが、その中には禍つ神を討ち祓うための楯や矛のような武器や、禍つ神を防ぐための鏡や玉のような神威を込めたものが入れられており、地中に埋める事によって禍つ神を防ぐ事も行われます。

地鎮祭は起工式とよく混同され、工事の安全を祈念する祭りと思われがちですが、土地を「鎮祭」する祭りが地鎮祭であり、工事の安全を祈念する祭りが起工式です。

地鎮祭を行うにあたり、先ず日時の選定が必要となりますが、吉日は次の通りとなりますので暦でご確認下さい。

【十二直】

除神・定神・成神・開神

【干支】

甲子・甲寅・甲辰・乙酉・戊申・庚子・庚戌・壬子・庚寅

【六曜】

先勝・友引・大安・先負

十二直、干支、六曜の三つの組み合わせが該当する日。（但し、三隣亡の日は除きます。）

執行日は吉日を参考にしながら氏神さまと施工者に相談して決定します。

当日は、厳粛な鎮祭が行われる事を念頭に、威儀を正して参列します。

賽銭箱の奉納

昨年、十月大森孝夫氏（倉敷市中帯江）が隋神門の矢大神と左大神の賽銭箱を新しく作り替えて一対奉納下さいました。

隋神門の賽銭箱は特に老朽化が激しく、憂慮致しておりました。早速、檜の香も芳しい賽銭箱を設置させていただきました。

稲荷神社にキツネがお目見え

境内神社の「稲荷神社」に焼き物の大きなキツネを設置しました。キツネは御祭神の神使でもあるため、家庭でも飾られます。祀らなくなった稲荷神社の陶器のキツネがありましたら、お持ち下さい。大キツネと共に安置します。

責任役員・監事の就任

左記の総代さんが四月十日付けで就任されました。

責任役員		監事	
退任	新任	退任	新任
渡邉　武志 早島町早島一九三七	亀山　秀明 早島町前潟六二〇ー一〇	亀山　秀明 早島町前潟六二〇ー一〇	寺山　俊雄 早島町早島八九九

総代の就任

左記地区の総代さんが四月一日付けで就任されました。

長津		船本	
退任	新任	退任	新任
渡邉　武志 早島町早島一九三七	松田　喬 早島町早島一九一六ー二	河合　陽一 早島町前潟一〇七三ー一	渡辺　利明 早島町前潟二五七

祭事暦

五月十四日（土）［午後七時］
八幡神社春季大祭
（露店あり）

五月十五日（日）［午前十時］
鶴崎神社春季大祭
【供膳祭】

七月三十日（土）［午後五時］
夏越祭【輪くぐり祭】
（露店あり）

毎月一日（午前九時）月次祭

諸祈祷・出張祭の案内

◆初宮詣・交通安全・厄除・安産・家内安全・病気平癒その他
◆地鎮祭・上棟祭・家遷清祓・宅神祭・結婚式・神葬祭等

ご希望の方は前もってご連絡下さい。

祈祷／出張祭は
予約
をお願いします。